

國にも後代にも相傳ふる所なればいかにも然るべき字こそあらまほしけれ、文と昭との二字のうちをもて、宜しく撰み下さるべき由を、申させ給ふべき草を參らせたれば、老中の人々、其由を答へ申されしに勅して文昭の字をご賜らせ給ひたりける、前代の御廟號をも、當代の御名の字をも、某が撰みし所を禁裏にも仙洞にも取用させおはしまし、某又御廟の御鐘銘をも撰び參らせし事ごとも、誠に辱き事ごともなり、

〔類聚名義抄五〕 謂音益又神至反ナリイミナウマウタ笑謎正

**段註說文解字言上**謚行之迹也。周書謚法解。檀弓樂記表記注。从言益聲。按各本作下。從言夸。闕上此皆云謚者行之迹也。謚迹疊韵。从言益聲。後人妄改也。攷玄應書引說文作謚六書故曰。唐本說文無謚。但有謚行之迹也。據此四者。說文從言益無疑矣。自呂忱改爲謚。唐宋之間。又或改爲謚。遂有下說文而依字林屬入謚笑兒於部末者。然唐開成石經宋一代書版皆作謚。不作謚。知徐鉉之書不能易天下是非之公也。近宗說文者。不能攷知說文之舊。如汲閣刊經。皆典。依宋作謚矣。而今正謚爲謚。而刪三十部末之笑兒學者。可下以撥雲霧而覩青天矣。神至切古音在十六部。

〔倭訓榮<sub>於</sub>篇四十五〕おくりな 謂をよめり死後に贈るの名也、宇多帝以後は謡を奉らず、  
〔玉勝間九〕いまだ世にある人のことに謡をいへる誤

太平記に、村上彦四郎義光<sup>ヨシオガ</sup>が、大塔宮にいつはりかはり奉りて、みづから死なむとする時の詞に、我は後醍醐天皇の第二の皇子云々といへり、其時は後醍醐のみかどは、いまだ世にましくしほどなるに、いかでか後の御謚をば申さむ、志るせる人のひがこと也、此たぐひからぶみにもあり、史記の田齊世家といふくだりに、齊國の人の歌に、姫乎采邑歸乎田成子<sup>ヒルモリヒルモロトノタニノミコト</sup>とうたへるよし志るせり、成子といふは、田常といふ人の謚なるを、これも其人のいまだ存在しほどのこと也、左傳にも、此たぐひありしやうにおぼゆるを、そは忘れたり、

**〔令義解公式〕天皇諡** 謂證者，累生時之行迹爲死後之稱號也。即經緯天地爲文，撥亂反正爲武之類也。

〔大鏡後二條〕太政大臣になり給ぬる人は、うせ給ひてのち、かならずいみなと申ものありけり。中